

ふじしろ政夫と共に県政・市政を変えよう

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会 ニュース11年3月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 TEL&FAX 047-445-9144

E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com ホームページ <http://e-kamagaya.com/>



ふじしろ政夫

県政を市民の手に！ 変えよう県議会

来年度の予算が組み立てられています。清水市長が進める「くらし安心・実感の街鎌ヶ谷」をつくっていく為にも、県の事業、県の予算が大きくかかわっているこ

とが予算の内からも分かります。

県議会・県政の課題を市民の皆様と共に解決していきます。

なれ合いと、もたれ合いの無責任体制を改革します

昨年第三セクター「かずさアカデミアパーク」が破綻し、約60億円の損失を出したのに「たまたま経営の悪くなっているところに社長として天下っただけ」と誰れも責任をとろうとしない。

不正経理40数億円。いまだにプール金を返さない企業もある状態。これでは「なれあいともたれあいですね」と県職員に問えば「まあ、そんなもんですね」と答える始末。チェックすべき県議会議員は、なにをしていたのやら……不正経理を正せない体質を議員も持っているのだろうか？ 変えよう県議会！ 県政を市民の手に！

市民・県民によく見える、聞える、分かる県議会・県政にします

地方自治の本旨は、直接民主主義。620万県民の声がおおる仕組みにしていきたいです。「議会基本条例」「自治基本条例」を制定していくことと、議員個人としては最低でも必ず議会報告会を年4回以上開いて情報を提供することを約束します。市議会へ県の多くの情報が提供される仕組みができるよう提案します。

いつでも、どこでも誰れもが安心して見てもらえる地域医療・地域福祉をつくります

小児救急24時間365日体制。高度医療からかかりつけ医の初期診療、そして予防検診と介護福祉・障がい者福祉がトータルにケアされる千葉県の地域医

療をつくっていきましょう。「メディコポリス」といわれる訪問看護・訪問診療を中心にして、医療と介護福祉・障がい者福祉と、そして地域の産業が一体となった街づくりをしていきます。

鎌ヶ谷市の幹線道路・県道を安全・安心な道にします

鎌ヶ谷にひっこしてきて、住民のいう言葉、「鎌ヶ谷はいいところなのに道路が危い、それにきたないねー」子供・障がい者・高齢者が安心して歩けるような道になっていないのは数10年間県議会・県政が県道の歩道整備、街並み景観を考えてこなかった結果。鎌ヶ谷市民だって市民・県民税を払っているのです（40%は県の収入）。市民の声がとおる県議会・県政にして、安心して歩ける県道にしましょう。

三番瀬のラムサール条約登録を実現させます



2001年堂本知事の埋立て白紙撤回から10年、いまだにラムサール条約登録がされてません。堂本さんが知事に選ばれた時の民意を考えてみるなら、第二湾岸道路を通すのではなく、ラムサール条約登録をして、生物多様性の豊かな自然（里海）を人間が共に享受できる“海を活かした街づくり”こそ歩む道です。

第二湾岸道路を通すのではなく、ラムサール条約登録をして、生物多様性の豊かな自然（里海）を人間が共に享受できる“海を活かした街づくり”こそ歩む道です。

社会的セーフティーネットを県内につくり、分かち合いの公共サービスを確立します

“悲しみの分かち合い＝公共サービス”。行政が本来おこなわなければならない仕事をとりもどし、社会を社会たらしめる施策を展開します。就労・居宅・生活支援を実現し「一人一人を大切に作る千葉県」に。

議員報酬・政務調査費を県民の目で見直します

県議会議員は1年間の報酬1473万1200円（期末手当を含み）+政務調査費は480万円（会派分含め）。政務調査費の不適切な使用が指摘されたりしています。本当にこれだけの費用が必要なのかを含めて、市民・県民の手による見直し（事業仕分け）を主張します。

平成23年度予算案

千葉県の予算、鎌ヶ谷市の予算を見るなかから街づくりの方向性をさぐっていきましょう。

千葉県の予算案

県税収入6340億円を見込み、国からの増額された交付税1680億円(+16.7%)、臨時財政対策債1760億円(-3.8%)、建設地方債680億円などで、



1兆5500億円の予算案が組みたてられました。

- ①安全・安心の社会づくり
- ②福祉・医療の充実
- ③子育て支援を重点化

概略は次のようになっています。

《安全・安心の社会づくり》

ひたたくり犯罪が全国一になってしまった千葉県。なんとかしなければと…

- 移動交番車 13台配備 (1億円)
- ひたたくり犯罪年間5件以上多発地区に防犯カメラの設置 (7000万円)
- 地域安全パトロール事業 (3億5000万円) を緊急雇用創出事業として展開します。

※何故全国一ひたたくり犯罪が発生するようになったのかの原因究明の作業の必要性を感じます。

《福祉・医療の充実》

- 老人福祉施設整備関係事業 (83億3700万円)
：昨年より32億円プラスし、特別養護老人ホームなどの施設整備を進める
- ドクターヘリ・救命救急センター事業 (11億800万円)
：日医大北総病院と、国保君津中央病院にドクターヘリを。50K~70Kmエリアで15分~20分で到着
- 医師・看護師確保関連事業 (20億3300万円)
：県内勤務を希望する医学生への修学資金貸付け (医師25名、看護師296名) など、全国平均より少ない医師数の現状に対応

《子育て支援》

- 子ども医療費助成事業 (56億円)
：小学校3年まで1回300円で医療費は助成を全県下に
- 保育所の整備促進 (38億3800万円)
：国の助成に県独自の加算措置で待機児童の早期解消を図る

《雇用と産業》

- 中小企業振興資金事業 (1600億円)
- 緊急雇用対策事業 (129億6900万円)
：国の交付金を活用し、緊急的雇用対策を行う

※県の借金残高が2兆7400億円になってしまうのは将来に問題を先送りした形になっています。

鎌ヶ谷市の予算案

後期基本計画第一次実施計画の初年度としての予算組み。277億2000万円の一般会計です。

生活保護費 (18億2000万円)、子ども手当 (24億7000万円) の増額、子ども医療費助成 (1億8000万円)、障がい者自立支援給付事業 (6億8000万円) など、民生費が113億5800万円で構成割合41%を占める額になっています。社会的セーフティーネット、高齢者・乳幼児への福祉といった悲しみの分かちあいである“公共サービス”へ向けた一歩が国・県・市の予算の中にあらわれ始めています。しかしまだまだ社会のあり様そのものを変革するまでの方向性が予算として示されていないのが一抹の不安です。

千葉県予算の中での **緊急雇用対策事業** への鎌ヶ谷市の対応は、広報写真フィルムデジタル化事業 (147万円) 食育推進 (418万円)、子育て支援員活動事業 (618万円) など15事業総額1億1412万円を計上しています。

又、県事業 **地域安全パトロール事業** は、鎌ヶ谷市においては、夜間防犯パトロール事業 (1290万円) としてあらわれています。**移動交番車** の1台は鎌ヶ谷市に平成23年11月に配置されます。

子ども医療費助成事業 では、鎌ヶ谷市の1億8000万円の半分が県から補助されます。県の **老人福祉施設整備事業** は大巾に増額され鎌ヶ谷市の特別養護老人ホーム100床増床へは県から4億円の事業補助が出ます。

新事業としての新鎌ヶ谷駅高架下の民間保育所 (4875万円) も県の **保育所整備事業** として1250万円の補助があります。

ヒブ・肺炎球菌ワクチン接種事業 (1億1293万円)、子宮頸ガンワクチン接種 (8415万円) も県からの財政的支出金があります。市独自としてはプレミアム商品券発行への補助 (1200万円)、庁内エレベーターバリアフリー化・音声案内装置の追加 (4300万円)、市制施行40周年記念事業 (569万円) などが計上されています。

予算編成後、基金残高約20億9000万円と財源的に安心できる形になっています。総務省がつくった地財計画での地方交付税枠の増額が大きく寄与しています。新京成高架事業、鎌ヶ谷大仏交叉点、くぬぎ山交叉点事業、大柏川の第二調整池事業はそれぞれ県事業として計上されています。

“市政=県政”の視点で、千葉県予算、鎌ヶ谷市予算を見ていくことで県議会・県政と鎌ヶ谷市の施策の多くのことがらがかかわってくることも分かります。

鎌ヶ谷市民の声がとおる県議会、県政にしていきたいでしょう！



「市政＝県政」

Q & A

市政の課題を解決するには
県政での解決が必要です

Q 洪水対策はすすむのですか？

A 鎌ヶ谷市内は、手賀沼水系、印旛沼水系、真間川水系の分水嶺。

高台なのに毎年大雨のたびに床上、床下浸水の被害が発生しています。特に馬込沢地区、南初富地区など30年～40年間も苦しんでいる状況を改善するには、基本的には県の事業である大柏川（真間川へ）の河川整備・大柏川の第二調整池、大津川の河川整備が必要です。早く実施するよう県政、県議会へ市民の声をとおす必要があります。

鎌ヶ谷市としては、二和川のバイパス、貯留池の建設と大巾に被害を軽減できるような施策を早急におこなう必要があります。

市は実施計画になくても前倒して計画をつくると明言しています。



大柏川第二調整池予定地

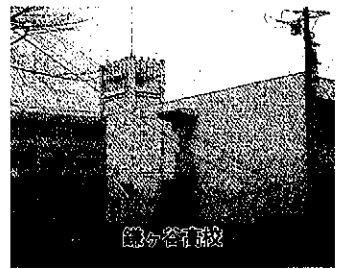
Q 県立高校にはクーラーの入ってるところとないところがあるってなぜ？

A 県立高校の教室にクーラーが入っている学校と入っていない学校があるのは、保護者の財源で入れているからです。本来教育環境を整えていくのが教育行政のはずなのに…

親御さんの経済格差が教育格差につながってしまっている現実があります。

高校中退率・授業料減免率と受験学力偏差値との強い相関関係も指摘されています。

家庭の経済力によって教育環境が変わってしまい、“学力”にまで影響してしまっているのです。本来すべての子供に等しく教育の機会と環境が与えられるべきです。最近つくられた千葉県「教育振興基本計画」の最も欠けている視点です。市民の声を県政へ通しましょう。



鎌ヶ谷市立

Q 住宅街に突然マンション計画…なんてことはないですよね？美しい街並み景観はつくられますか？

A 建築基準法、あるいは都市計画法にもとづいて高さ規制がされています。しかし、その法律に従えば、広い面積の場合、二階建ての住宅街の内でも、10数階のマンションを建てる事ができます。

全国各地で今、高度制限を都市計画法にもとづいて設定しはじめています。最高限度15m、20m、30mといった具合に設定することで、生活環境を守ろうとするものです。さらに景観法にもとづく景観条例をつくることで美しい街並みを守りつづけていくとする動きがあります。千葉県の景観条例は理念条例ですので、具体的な規制は、鎌ヶ谷市が景観行政団体となり景観条例をつくっていく中から実施していくこととなります。真鶴町の“美の条例”のように美しい街並みを…



住宅街にマンション計画

Q 船取線（県道）は危い！狭い！歩道整備をして…

A 鎌ヶ谷市議会でも多くの議員からとりあげられている議題です。歩道のない県道に4トン車などがスピードをあげて走っています。狭い歩道の真中に電柱があって、車イス、乳母車は通れません。小学生や高齢者もそしてすべての



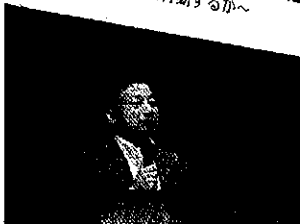
歩道の真中に電柱？

住民にとって安全な道路にしなければなりません。県道はすべて県の管理、県の事業…県議会でどう議論されているのか？見えない…県議会の場で改善へ向け、きっちりと議論していく議員が必要です。

『自治体における市民・議会・首長』

— 福嶋さん自治を語る —

『自治体における市民・議会・首長』
市民としてどう考え行動するかへ



阿久根市の専決処分、名古屋市の専決処分、古屋市における首長による議会のリコール運動、白井市の専決処分と、市民自治の観点から市民・首長・議会の関係が問われています。

自主講座「市民自治」の移動講座が白井市でおこなわれ、福嶋浩彦さんが講演しました。

福嶋さんはまず『今日、首長がローカルパーティーをつかって自からを支持する議員をつくらうとする動きがあったりしますが、首長の主張に正しさがあるとしても権力分散型という二元代表制の地方自治においては、問題があります。』と指摘しました。

地方自治におけるリコール、解散、住民監査請求、特別法（憲法95条）の住民投票を示し、直接民主主義が自治体の民主主義の基本であることを明らかにしました。又、我孫子市長時代、予算案の編成過程を公開したこと、補助金をすべて0ベースにして既得権をなくす中から、新たに市民目線で補助金を決定していったことを例示しながら、市民参加とは、市民が“正式”の議会の場で、正式な議論をして、正式に決定して参加していくことだと語りました。

首長は市民と対話し自らの責任で物事を決定する。議会も市民と対話をし、議会の責任で決定する。まさに市民と議会と首長と三者の間の緊張関係があってはじめて市民自治がなりたっていくと、その関係性を示しました。更に、市民と議会・首長との間の意見の相異が生じたときの是正する仕組みとして、「常設型の住民投票条例」（全国で常設型は30ほど）の重要性を指摘しました。

質疑応答のなかで、専決処分について、福嶋さんは「首長の専決は緊急的あるいは議会が開けないといった限定された状況下で首長にあたえられた権限である」と二元代表制下における首長の再議権との関係性の中で語りました。「それ故、後日議会が不承認でも効力を失わないのです」と法体系として語りました。しかし現実政治の中で、議会不承認でも専決してしまえばといった言動が見られるこの事態にどう対応すべきか、自治の真価が問われている訳です。

最後に消費者庁長官の立場から、「鉄道運賃の決定に、これまで消費者庁が「改訂」にはかかわれたが、新設運賃にはかかわれないのはおかしい。今検討している」と語りました。成田新高速鉄道の運賃が決定される前に、消費者庁の権限が変化していたら…と思われるところです。

野馬土手サミットで北総の文化に光を



鎌ヶ谷市にある小金中野牧、捕込・野馬土手は国指定の史跡となっています。

千葉県北総台地には、流山から柏、松戸、鎌ヶ谷、船橋にいたる小金牧、佐倉から成田に至る佐倉牧があります。徳川幕府直轄の牧としてありました。

軍馬生産の貴重な遺跡としての野馬土手、捕込を保存活用して千葉県の文化を再評価していきたいものです。流山から佐倉にいたる行政・市民が野馬土手サミットを開いて地域間の文化交流ができればと思います。

中学生・高校生・大学生による かがや若者サミット



“まちづくりフォーラム2011”が開かれ、32人の学生が4つのグループに分かれ議論し、後期基本計画への若者からの提言がなされました。コーディネーターの秋山教授からは、「鎌ヶ谷に暮らしつづけていこうと思える夢のある街づくり」が今後の方向性として語られました。

がんばれ！ふじしろ政夫

清水聖士は、ふじしろ政夫さんを応援しています。鎌ヶ谷市がより良い街になるために、ふじしろさんに県政の場で思いっきり働いてくれるよう願っています。

清水聖士（鎌ヶ谷市長）



市民のこえ



●上総アカデミアパークや企業庁の不良資産など、県の税金の使い方に疑問があります。その支出を決めた県議会の責任は何処にいったのでしょうか。藤代さんなら全県的な視点で問うて頂けるでしょう。地元への利益誘導を優先し「木を見て森を見ない」議員はいりません。

武藤邦芳（印西市議 みどりの未来運営委員）
●藤代市議の真骨頂は人権・市民自治の追求でしょう。プライバシー権保護、共謀罪反対、自治基本条例の学習会等の活動がそれを示しています。変えよう千葉県政！藤代氏はきっとやってくれると確信し応援します。 岡崎茂夫（道野辺中央）